2016
State of Testing Report
テストの現状調査レポート

Sponsored by PractiTest

QA Intelligence
Testing & QA Management blog

目次

テストの現状調査プロジェクト 3

回答者の統計情報 4

テストの専門性に関するプロフィール 5

テスターの仕事ぶり 7

スキル 9

テストプロセス 12

テストの課題 14

将来の予測 16

おわりに 18

ご協力いただいた方々 19

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

Share

テストの現状調査プロジェクト

[テストの現状調査2016 日本語翻訳チームから]
このレポートは2015年に実施された『テストの現状調査2015』に引き続き、イスラエルのPractiTest社のJoel Montvelisky氏とインドのTea-Time with Tester誌発刊者のLalitkumar Bhamare氏が、2016年1月 ～ 2月にインターネット上で行った第3回目のアンケート調査結果の報告です。前回の調査よりも多い1000人以上のソフトウェアテストのプロフェッショナルがアンケートに回答してくれました。この中には日本からの回答者もおり、テストのカンファレンスや集まりとしてJaSSTとWACATEとの回答があったようです。11ページにこの2つのロゴマークが貼られているのが嬉しいですね。
前回までと同様、翻訳版の作成にあたっては、レポート発行元のPractiTest社から電子データを提供していただけたのでオリジナルと同様の体裁にしています。また、今回PractiTest社は、世界のテスターに自国語への翻訳を呼びかけており、すでに英語、日本語以外に5ヶ国語に翻訳されています。これは2013年、2015年に我々が日本語に翻訳したことがきっかけで始まったことで、大変嬉しく思っています。
この翻訳版レポートが読者のみなさんの問題を解決する手がかりになることを願っています。

2016年7月
日本語翻訳チーム 根本 紀之、辰巳 敬三、飯島 茂恵子、やの よしを

今はテスターにとってエキサイティングな時代ですよね？

私たちの周りでは様々な変化が起こっています。技術は頭がクラクラするほどの速さで進歩しています。開発の加速度は私たちの仕事を以前よりもチャレンジングなものにしています。そして全体的には、私たちの仕事のエコシステムにおいて、より真剣な品質とテストへの取り組みが見られます。

かつてテスターを最終段階になって重要でもない作業をして出荷を遅らせる「スキルのない人」と考えていた人たちが、今日ではテストを重要な活動と見ています。

この認識の変化は、予算配分はもとより私たちテスターが召集されるミーティングの種類に至るまで、全てにポジティブな影響をもたらしています。さらにプロジェクトにおける製品やプロセスへの私たちの提言に耳が傾けられるようになってきたと思われます。

おっと！秘密を漏らしてしまったでしょうか？大丈夫、もうこのあたりでやめておきますので、あとはあなた自身で調査結果を確認してください！ただ、テストの現状調査2016は61ヶ国から1000人以上のテストの専門家が参加した、これまでで一番大規模な調査になったということはお伝えしておきたいと思います。

この調査の質問事項に対し、見識に満ちたフィードバックをいただいた検討委員会のメンバーであるJerry Weinberg、Keith Klain、Daniel Knottの各氏に改めて感謝いたします。この調査のお知らせが文字通り世界の隅々に届くように、このプロジェクトのことをブログに投稿していただいた全ての協力者に感謝いたします。これらの素晴らしい人たちのことは、このレポートの最後のリストでもっと知ることができます（笑

最後に、この調査への回答と2016年版のテストの現状調査の作成に協力していただいた全ての方々に感謝いたします。

ぜひとも以降の情報を確認してください。そして優れたテスターの誰もが情報を批判的に確かめるのと同様に、この情報も2回以上確認することをお勧めします（笑　まず私たちのテストのエコシステムで何が起きているかの全体的な雰囲気を得られるように素早く流し読みし、それから、分析結果とレビューされた様々な角度からのコメントを深く読み解くとよいでしょう。

昨年までと同様、みなさんがテストの現状調査2016にたくさんの興味深い事実やうれしい驚きを発見されるであろうことを確信しています。この情報が、みなさんがテストチームとともに専門性をさらに高めていくための助けとなることを期待しています。

楽しんでください！
Lalit & Joel

テストの現状調査（State of Testing Survey）について

テストの現状調査は世界規模で行われている最大のテストの調査です。この調査は60ヶ国以上から1000人以上の回答者が参加することによって、テストの専門性と世界のテストコミュニティに関するもっとも正確な情報を提供することを目的にしています。毎年調査を実施し、現状と将来の動向を把握しています。

20名以上の著名なテストのブロガーやオピニオンリーダー（最後の協力者のリストをご覧ください）とともに実現した今回の調査は、テスターであるあなたに、世界のテスターや会社と比較して自身の専門性をよりよく理解し、現状と将来の動向に基づいてより良い準備ができる力を与えます。私たちはテスターからのフィードバックをいつも嬉しく思っていますので、お気軽に連絡をください。

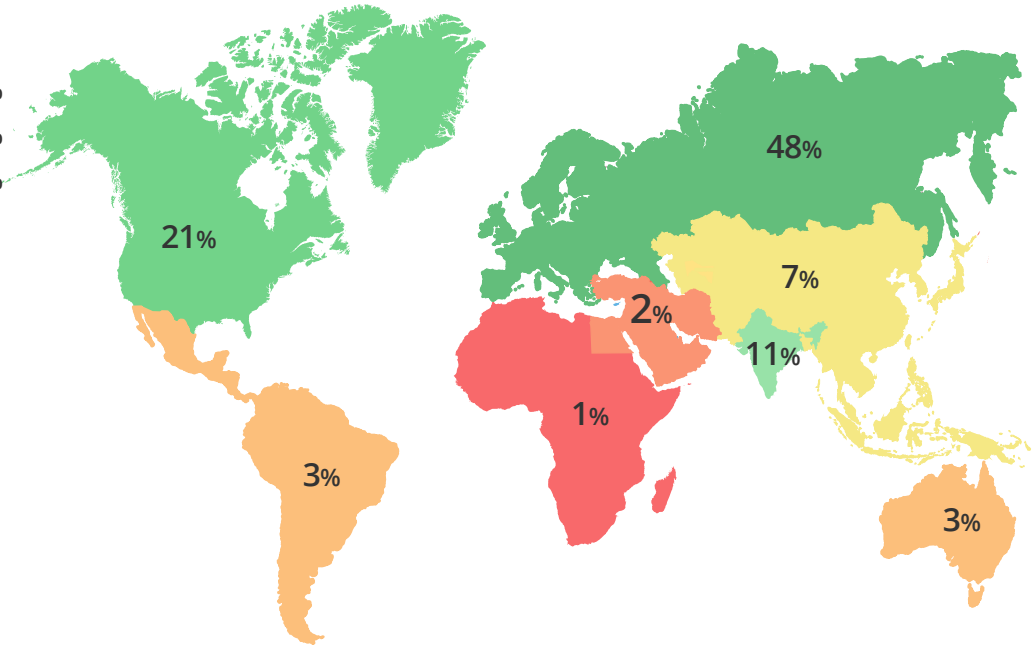
* 昨年までと同様に、この調査報告は日本語に翻訳されると思います。あなたの国の言語に翻訳したい方がいらっしゃいましたら私たちにお知らせください。

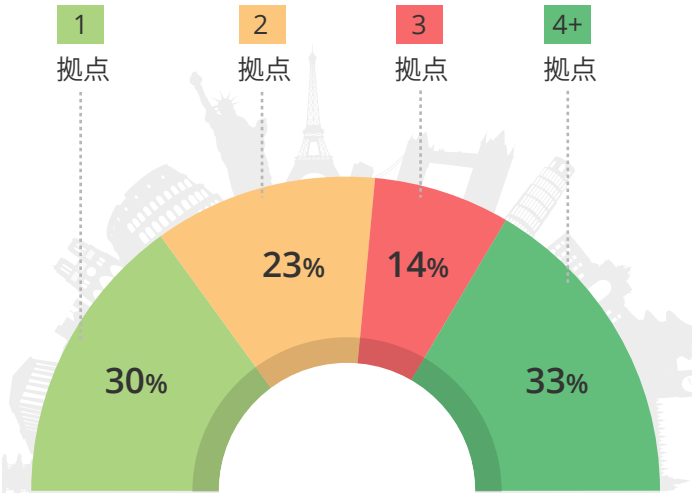
© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

回答者の統計情報

地域

- Max ヨーロッパ（とロシア） 48%
- USA / カナダ 21%
- インド 11%
- アジア（インド以外） 7%
- その他 4%
- ラテンアメリカ 3%
- オーストラリア / ニュージーランド 3%
- 中東 2%
- Min アフリカ 1%





会社の拠点数

会社の拠点数を尋ねたところ、以前の調査に比べてチームはずっとグローバルに配置されていることが分かりました。

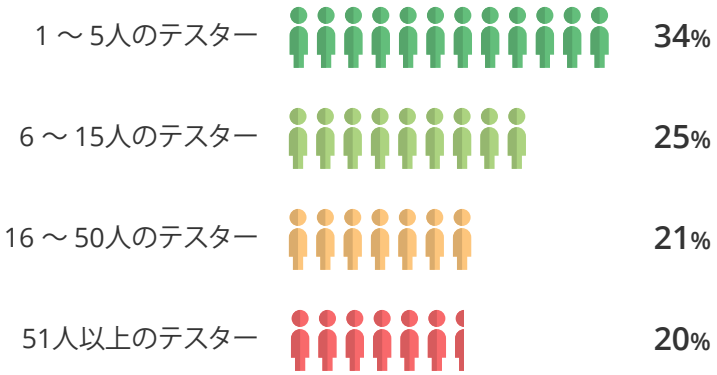
回答を掘り下げてみたところ、小さなテストチーム（5人以下）に所属する回答者の半数以上が2から3以上の場所に分散した開発チームにも属していることも分かりました！

要するに、テストと開発は分散して実施されており、テスターとして私たちは、このような新しい状況で成功を掴むためのスキル開発が必要となっているのです。

テストチームの規模

前回までの調査結果と比べてみると、テストチームの規模が年々縮小する傾向にあることが見てとれます。次回以降の調査でもこの傾向が続くのかどうかが興味深いところです。

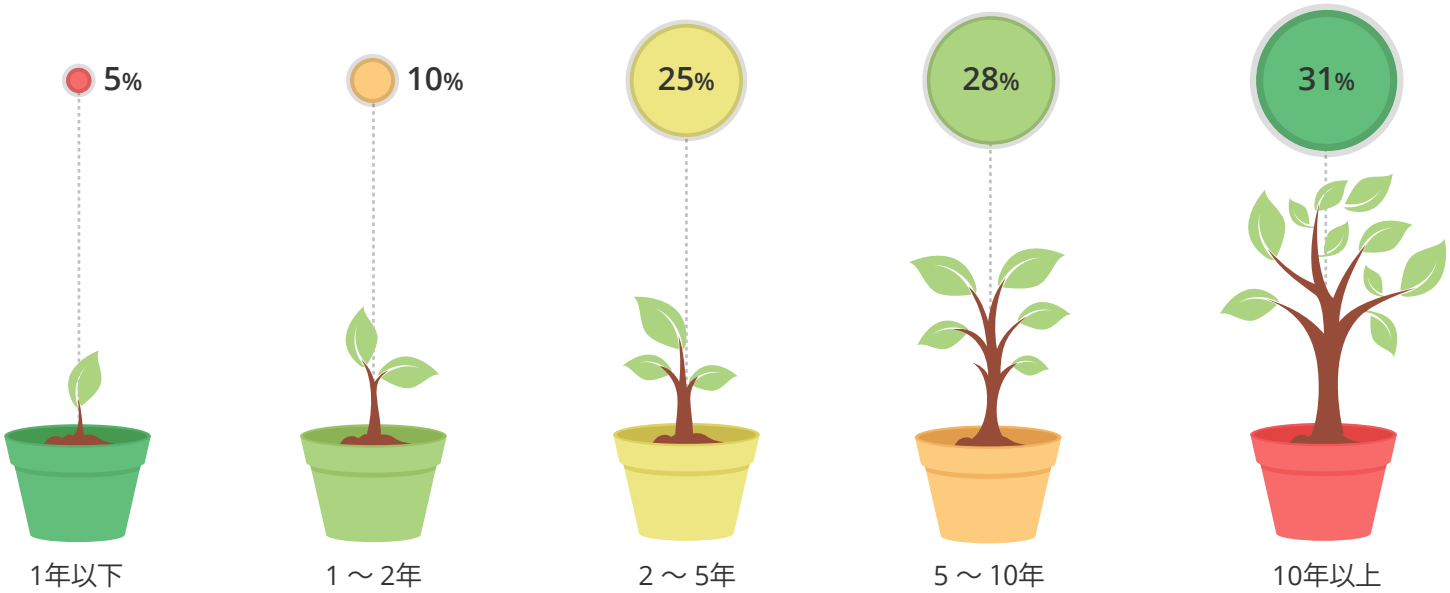
詳細にデータを調べると、昨年までと同様に、北アメリカ、西ヨーロッパ、オーストラリアのテストチームは小さくなり、それとは対照的に、インド、アジア、東ヨーロッパ、中東のチームは大きくなり続けているという傾向が見られます。



© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

テストの専門性に関するプロフィール

テストは専門職であり、腰掛け仕事ではない



昨年同様、調査に参加してくれたテスターでもっとも多かったのが5年以上の経験者であることは驚くことではありません。テストが会社や人生で「より良い機会」を探している人たちの腰掛け仕事（一時的な仕事）ではないという事実を示しています。

数値を良く見ると、東ヨーロッパ、ラテンアメリカ、アジアのテスターは北アメリカ、オーストラリア、西ヨーロッパに比べて平均的に経験が浅い傾向があることが分かります。

また、公式な開発モデルに従っていない会社（構造化されたモデルや原則に従っていないと回答した人）では、構造化された開発モデル（選択したモデルに関わらず）に従っている会社に比べて、テスターはかなり経験が浅いという傾向があ

給与の状況

税引き前給与（もしあればボーナスと臨時収入を含む）

	0 ～1年	1 ～ 2年	2 ～ 5年	5 ～ 10年	10年以上
アフリカ	5	5	NA	27	42
ラテンアメリカ	NA	NA	24	18	34
インド	9	11	16	23	38
東ヨーロッパ / ロシア	8	13	19	26	38
アジア	NA	8	26	33	64
中東	10	40	44	67	68
西ヨーロッパ / APAC	30	43	50	69	89
USA / カナダ	48	67	79	90	110

昨年までのデータと比較すると、大部分の地域と経験年数レベルで軒並み増加していることが分かります。

ここでの興味深い点は、地域によりますが、現場での経験年数2 ～ 5年か5 ～ 10年の時期に給与額の「ジャンプ」が起こることです。

* 給与の単位は1000米ドル
* NA - 意味ある情報を提供するための十分なデータが得られず

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

2人に1人はテストリード?

テスト専門家としての肩書き

- 37% テストエンジニア / テストアナリスト
- 34% テストリード / テスト マネージャー
- 9.5% その他
- 8% 自動化専門 テスター
- 4.5% コンサルタント
- 3% ソフトウェア エンジニア
- 2% テスト アーキテクト
- 2% プロジェクト マネージャー

回答者に職業上の肩書きを質問したところ、テストアナリストとテストエンジニアの数とテストリード、テストマネージャー、ディレクターの数はほぼ同じでした。

テスターと同じくらい多くのテストリードが必要なのでしょうか?もしそうなら、彼らは私たちをどこへリードしてくれるのでしょうか?(笑

数値の「中」を見ると、西ヨーロッパ、オーストラリア / ニュージーランドでは大部分の回答者が「コンサルタント」として働いていると回答していることが分かりました。この選択肢を考察するときにこの点に留意してください。

「その他」の回答では、テスターとして働いていることに加えて、チーム内でスクラムマスターの役割も担っているという回答者が多数いました。

多くの部門に報告されるテストレポート

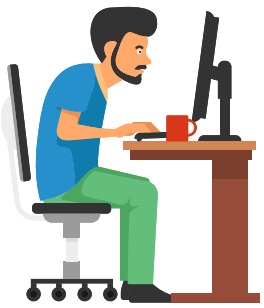
	プロジェクト マネージャー	開発 マネージャー	品質担当重役 / 品質担当部長	CIO / CTO
2016	37%	29%	23%	11%
2015	33%	24%	33%	10%

今回、この質問への回答では、興味深い昨年からの変化がありました。テスト業務レポートを報告する相手として品質担当重役または品質担当部長(昨年33% → 今年23%)よりも、プロジェクトマネージャー(昨年33% → 今年37%)と開発マネージャー(昨年23.5% → 今年29%)の割合が増えています。

私たちは、これは二つの傾向による結果だと考えています。1つは独立したテストグループが有機的な開発チーム(アジャイルやスクラム)の一部となり始めていることであり、2つ目は実務での独立性を保つために、テストチームがプロジェクトマネージメントの機能の一部となっていることです。

テスターは(空き時間を含め)何に時間を割いているのでしょうか?

ここでもっとも興味深い傾向は回答したテスターの1/3以上がインテグレーション&デプロイの作業を担当し、その割合も昨年より少し増えていることです。(昨年35% → 今年37.5%)



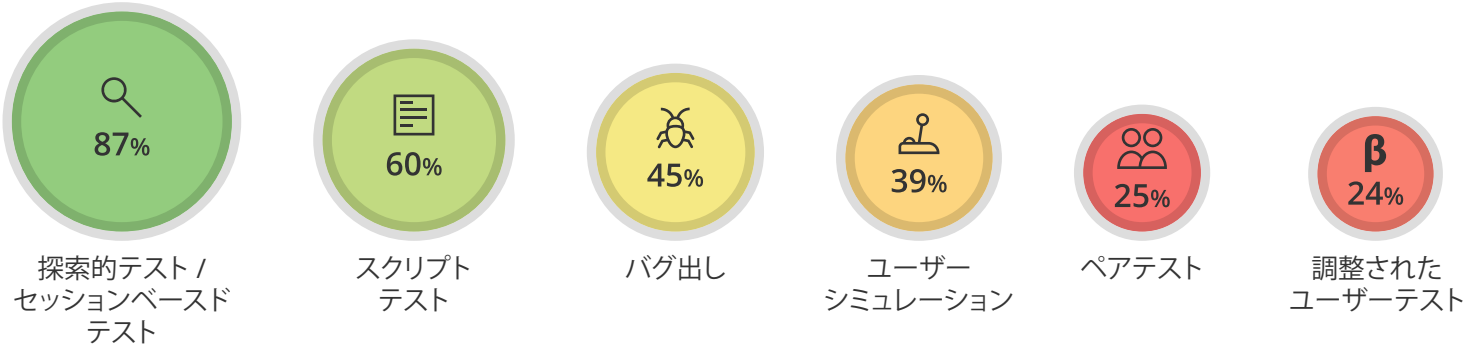
また、テストと開発の環境を管理するテスターの割合は大きく減少しました(昨年63% → 今年49%)。

- ドキュメント整備 51%
- テスト&開発の環境整備 49%
- インテグレーション &デプロイ 38%
- 要求獲得 37%
- 内製ツール開発 35%
- 顧客サポート&トレーニング 30%
- 単体テスト (他のテスト業務に加えて) 21%
- 専門サービス &販売サポート 10%

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

テスターの仕事ぶり

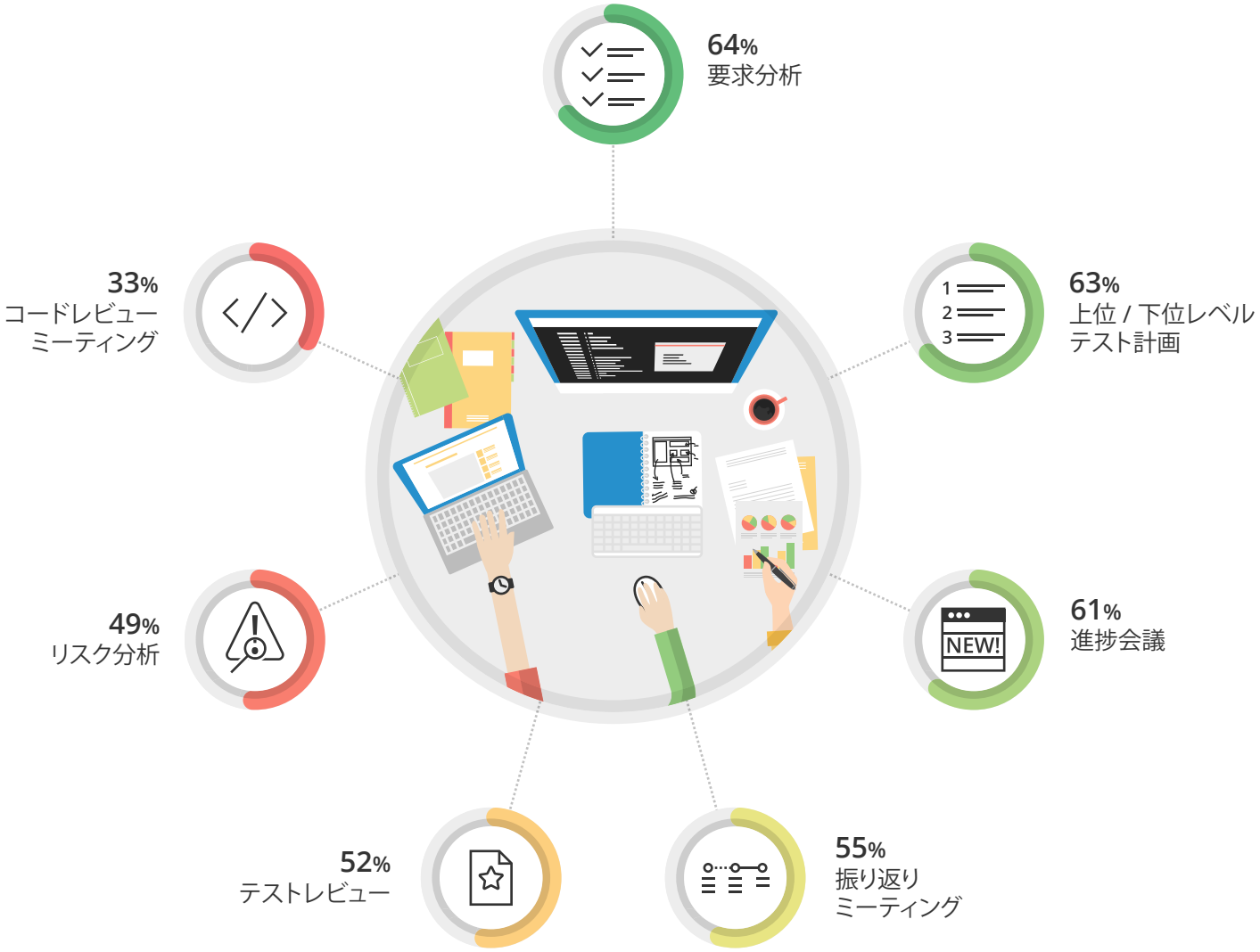
テスターは様々なアプローチを併用しながら仕事をしています



「探索テスト / セッションベースドテスト」の回答の割合が少し増え、「スクリプトテスト」の割合が少し減りましたが、例年、これらの数値には大きな変化はありません。

それより興味深いのはこの質問に対するコメントで、システムの問題を見つけるためにレビューやデモを実施しているというものでした。実に見事で興味深いアプローチです！

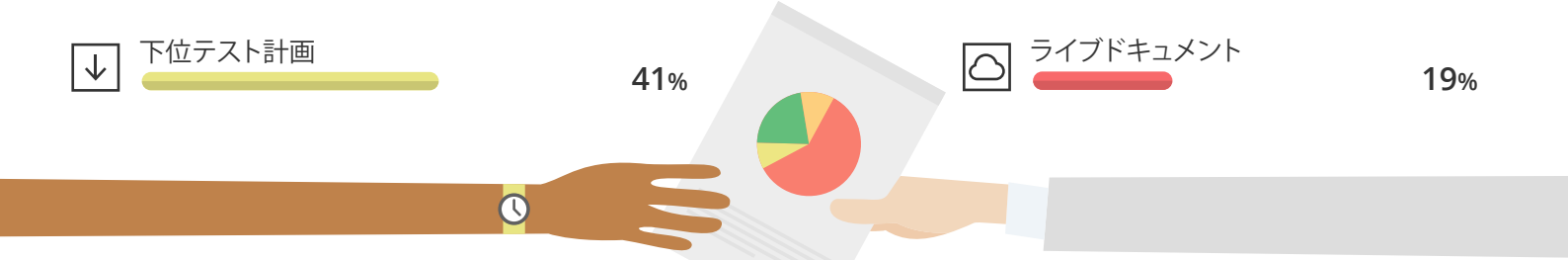
ソフトウェアの評価以外にも多くの作業をこなしています



© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

テスト文書はスリムになっています

上位テスト計画	62%
チェックリスト	54%
詳細テストスクリプト	50%
下位テスト計画	41%
マインドマップ	33%
テストチャータ	22%
リーンドキュメント	20%
ライブドキュメント	19%



「マインドマップ」(昨年21.5% → 今年33%)や「チェックリスト」(昨年52.5% → 今年54%)を使う人が増加する一方で、「詳細テストスクリプト」や「下位レベルテスト計画」を作成することが少なくなっていることから、より記述量の少ない文書を選択する傾向が強まっていることが分かりました。

正式なトレーニングの採用が増加しています

- 76% OJT＆ピア・メンター
- 68% 独学(書籍、雑誌、インターネットなど)
- 34% 認定資格
- 23% (2016) | 17% (2015) 正式なトレーニング
- 5% テストの課程
- 5% その他

正式なトレーニングがより一般的になっていることが分かりました(昨年17.5% → 今年22.5%)。さらに詳細に回答を見ると、特にインド、西ヨーロッパで人気がありますが、一方で北アメリカでは非常に不人気であることが分かりました。

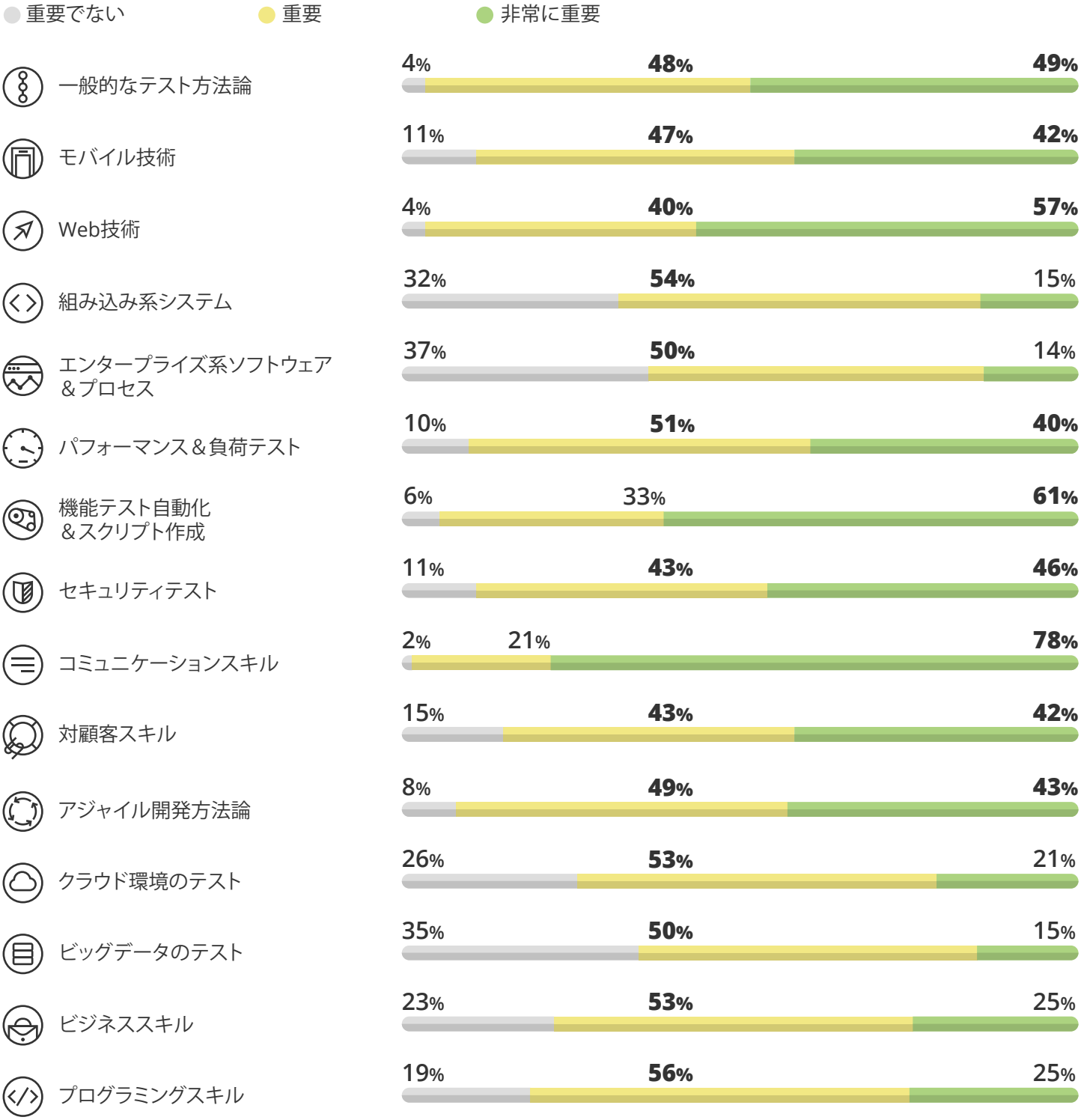
認定資格においても同様の傾向が見られ、西ヨーロッパ、オーストラリア / ニュージーランドではいまだに人気がありますが、一方で北アメリカではあまり人気が無いことが分かりました。

「その他」の回答の中に、彼らがどのようにテストを学んでいるかについて、次のような興味深い回答がありました。コミュニティイベントやカンファレンス、Rapid Software Testingのトレーニング、実践による学び、IEEE829を読むこと(本当か?!)、ウィークエンドテスティング

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

スキル

良いテスターになるにはどのようなスキルが必要ですか?



回答者は昨年までとは少し違うスキルの評価をしています。

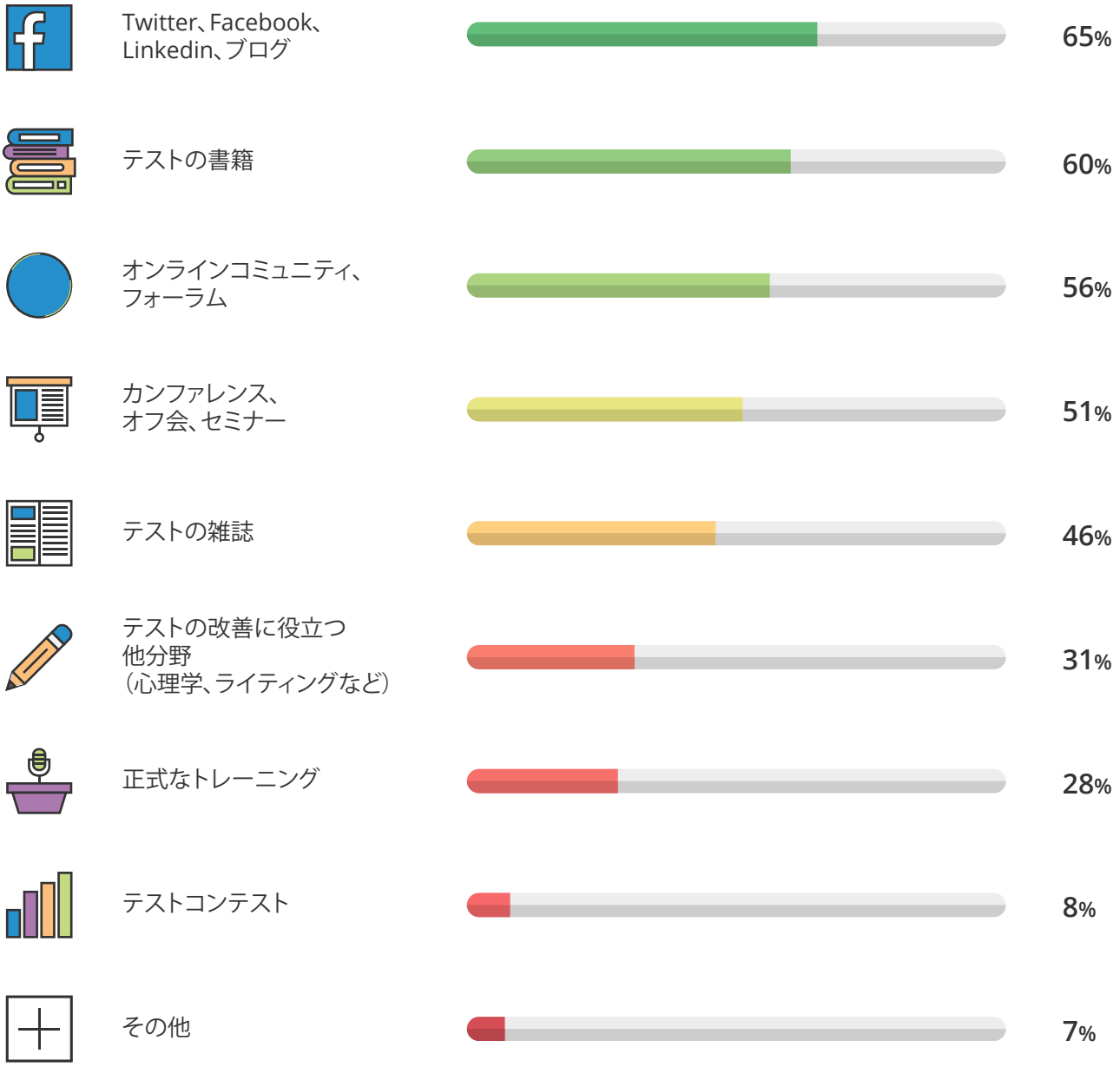
モバイル技術やWeb技術、アジャイル開発方法論や対顧客スキルなどにより重きを置いているように見えます。その一方で、エンタープライズ系ソフトウェアまわりのスキルの重要度が下がっています。

また、一番重要なスキルであるコミュニケーションスキルの割合がかつてないほど高かったということに触れておきます。

私たちは任意回答として、リストされている以外の重要なスキルについて尋ねたのですが、次のようないくつか興味深い回答がありました: 問題解決力、柔軟性、批判的思考、共感、先を見通す力、誠実さ、楽天主義、度胸、ユーモア、そして想像力です!

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

私たちはテストについての情報を最新に保つためにソーシャルメディアを参照しています



ますます多くのテスターが、テストの知識を最新に保つためにソーシャルメディアを参照しています。この回答は昨年の57.5%から65%にまで上昇しました。

他の回答の多くも数が上昇しましたが、これほどの急上昇ではありませんでした。

私たちは最新に保つための「その他」の方法も尋ね、いくつかここで言及する価値のある回答を得ました: クラウドソーシングのプロジェクトに参加、講演とそのフィードバックからの学び、ウェビナー、開発者とペアで仕事をする。そして私たちがとても気に入っている回答は「DevOpsやオープンソース開発への貢献のようにテストを超えた未来を思い描く」です。

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

大規模なカンファレンスだけでなく、たくさんの良いテストの集まりがあります

今年、私たちは「自由回答」形式で、過去3年の間に、どのような公式または非公式のカンファレンスに参加したのか尋ね、そして小規模なローカルのテスターの集まりを多く含む、とてもたくさんの回答を得ました。

CAST

Nordic Testing Days

TestBash

Star Conference/s

Agile Testing Days

JaSST (Japan Symposium on SoftwareTesting)

Let's Test

WACATE

CukeUp!

Weekend Testing

Selenium Conference/s

Rapid Software Testing courses

Testing meetups

Copenhagen Context

TTP Training

Tabara de Testare (Rumania)

Scrum master certification/s

Ministry of Testing courses

EXPO:QA

SIGiST

GTAC

QA or the Highway

STP-CON

Testwarez

Dutch Testing Day

North West Tester Gathering

Romanian testing conference

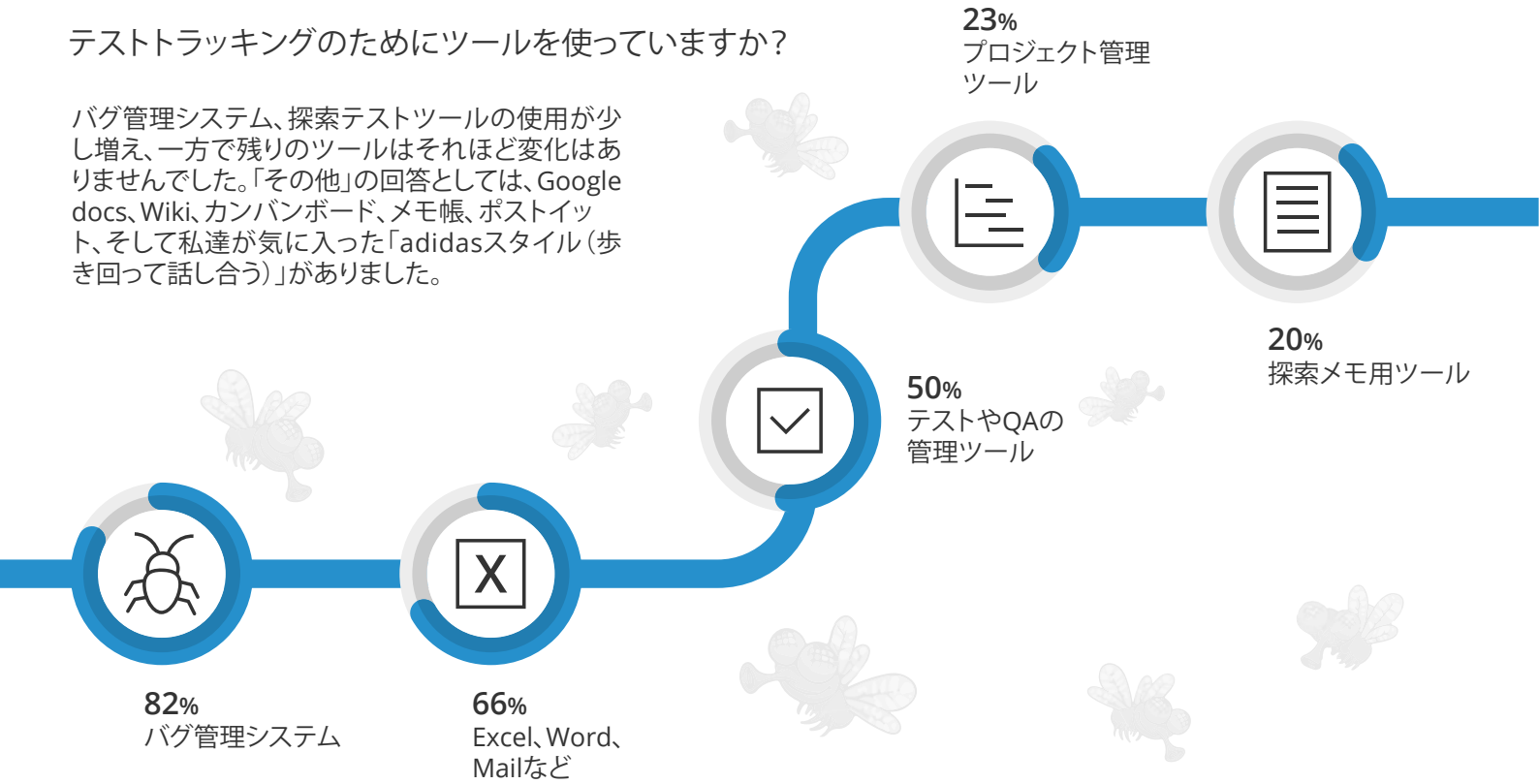
興味深いのは、多くの人がオンラインイベントとオフラインで参加したイベントを一緒に挙げていたことです。利点として考えられるのは、イベントに参加するのは好きでも、会社がカンファレンスに人を送ることに反対している ー そんな場合にいつでも代替案があるということなのです！オンラインの参加は実際の参加ほど良くも楽しくもないかもしれませんが、次善策も時には良い代替案なのです（笑

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

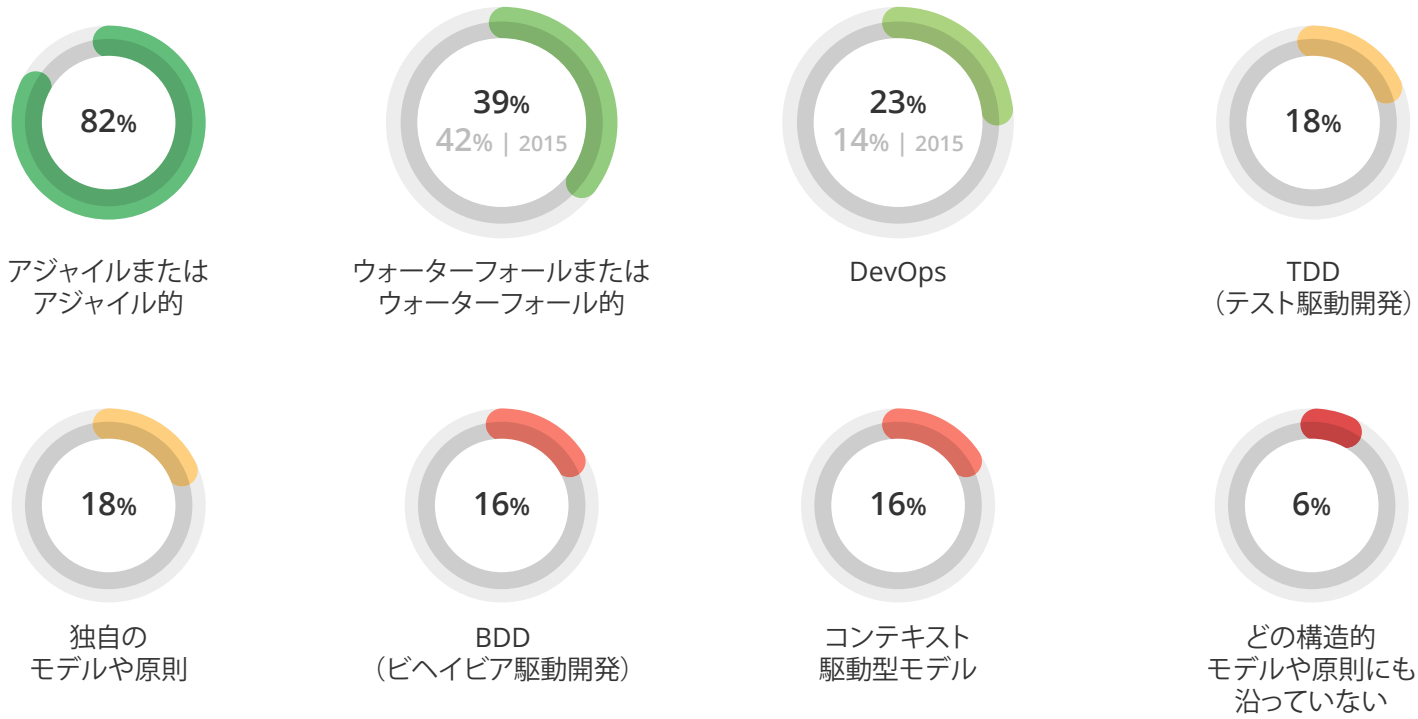
テストプロセス

テストトラッキングのためにツールを使っていますか？

バグ管理システム、探索テストツールの使用が少し増え、一方で残りのツールはそれほど変化はありませんでした。「その他」の回答としては、Google docs、Wiki、カンバンボード、メモ帳、ポストイット、そして私達が気に入った「adidasスタイル（歩き回って話し合う）」がありました。



アジャイルが強く、**DevOps** が強くなりつつある



組織では、引き続き複数の方法論を採用しています。

アジャイルの回答は90%近くに達しており、相変わらず圧倒的です（昨年もほぼ同様でした）。主な変化として、ウォーターフォールの減少（昨年42% → 今年39%）、DevOpsの採用の非常に顕著な増加（昨年14% → 今年23%）が見られました。

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

あなたの組織では自動化を取り入れていますか？

86%
自動化している

11% | 12% (2015)
自分のプロジェクトでは
自動化していない

4% | 2% (2015)
自動化しているか
どうか分からない

自動化している作業

75%
機能テストや
リグレッションテスト

46% | 40% (2015)
継続的統合
（CI）

26%
テストデータ
の生成

21% | 14% (2015)
SpecflowやGherkinなどによるBDDスクリプトの記述

46%
負荷テストや
ストレステスト

43%
単体テスト

23%
必要に応じて
使用される自作スクリプト

興味深いことに、継続的統合（CI）を自動化しているとの回答が増加しました（昨年40% → 今年45.5%）。このことは、今回「単体テスト」の回答も増えたことに直接関係していると思われます。

その他の興味深い点としては、BDDの使用が昨年の13.5%から21%に増加したことが挙げられます。

自分達の仕事がどのくらい自動化されているか知っていますか？

4%
90%以上

21%
50 ～ 90%

37%
10 ～ 50%

27%
10%以下

12%
分からない

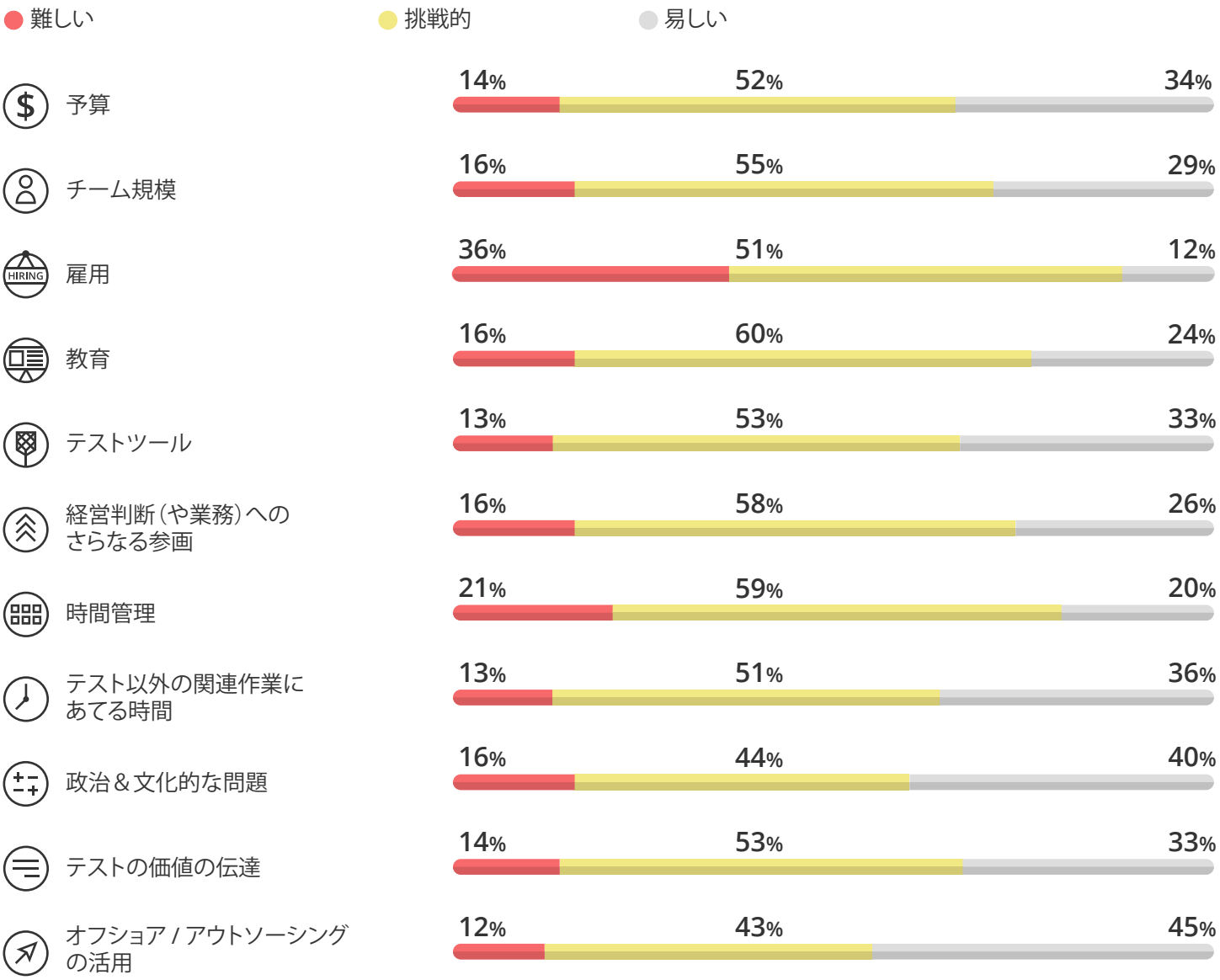
チームごとの自動化している作業の割合は、昨年の調査とほぼ同じでした。

興味深い点として、自分達の会社でどのくらいの作業が自動化されているか知らないと回答した人の割合が増加したことが挙げられます...

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

テストの課題

テストチームが抱える課題



テストチームが直面している「その他」の課題に次のものがありました: 更なる最先端手法への取り組みが不可能、ウォーターフォールとアジャイルのアプローチの統合、顧客とのコミュニケーションの不足、標準化されていない業界での業務、急すぎる成長、計画の時間の不足、経営幹部レベルのサポートの不足、多すぎるメトリクス、テスト可能なコードを書く方法を知らない開発者、「ひどい環境での素晴らしいアイデアの採用」、など。

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

テスト方法をどのように変更しましたか？

テスターが過去1年に行った作業方法の変更の内容と、なぜ変更したのかを、自由回答形式で質問しました。多くの興味深い回答があり、その中に次のものがありました。

“ 開発者に寄り添い、彼らのテストの能力（と意欲）の向上に多くのエネルギーを費やしています。

“ Dockerを使って開発環境を隔離し、CIのビルド中にサービスとデータベース間の統合テストを行っています。

“ TDD、BDD、DevOpsの融合方法の機能単位の選択化。正しいアプローチは必ずしも一つではないことの同意。

“ テストの期間中にすべての利害関係者と1対1で会話して期待値を設定するという新しいテストアプローチ。利害関係者はテストの終了時にテスト結果を見ていただけだったのが、今はテストの開始時から関与しています。

“ 開発環境をすり抜けてくる一般的なバグを減らすために、もっと開発者と一緒に取り組む。何を構築するのかの共通理解をみんなが持てるようにストーリーのキックオフの前に3アミーゴ・セッション（*）を導入しました。
* 訳者注: ビジネスアナリスト（BA）、開発者、品質保証担当（QA）による意識合わせのミーティング。

“ 以前より多い手動テスト。市場投入までの時間の短縮によりテストすべき新機能の数が増えますが、新機能に対しては手動テストのほうがより効果的です。

“ 負荷テストにJMeterを使うのはもちろんのこと、リグレッションテストの自動化にNightwatchとSeleniumを採用しました。これらのツールを効果的に導入できることが明らかというよりも、作業の自動化への強い要求があります。

“ より早いフィードバックを得るために、自動リグレッションセットをCI環境にリンクしたサブセットに分割しました。

“ 要求分析フェーズでチェックリストを書き始めました。これにより技術文書中のずれが分かりやすくなります。

“ UIの構築の前にAPI呼び出しのテストを行うために、Postman（*）を使って開発プロセスのより早い時期に積極的に多くのテストに取り組むようにしました。私が早くテスト文書やマインドマップの作成を開始できるように、技術的な議論や計画に早く私を含めることをチームに納得してもらいました。
* 訳者注: PostmanはChromeの拡張機能。Web APIテストクライアント。

“ アジャイル手法を取り入れ、やるべきことをより可視化できるようにQAチームのスタンドアップ・ミーティングを毎朝行っています。

“ 私のチームでは、価値を提供していない会議をすべて止め、2つの主要サイト（米国とスウェーデン）間の1日1回のスタンドアップ・ミーティングに集約することにしました。私たちは、より探索的なテスト方法や関連する管理手法へ移行する新しい旅を続けます。

“ 私たちは、従来のテストケースやスクリプトを書く方法から、これらをGherkinによるBDD形式で書いて、開発者がCucumberで自動実行できる方法に移行しました。

“ アプリケーションのテストで完全に網羅するために検討が必要な領域についてよく理解できるようにマインドマップを使い始めました。

“ 初期段階からプロジェクトに関与して、機能の完成を待たず、開発されたモジュールをテストすること。開発者とテスターが共通認識をもてるように、プロジェクト開始前にテストケースとデシジョン・テーブルを書きました。

“ テストアプローチを技術的なQAからよりビジネスプロセスに焦点を当てたものに変革しています。アジャイル / スクラム方法論と関連する自動化の支援が特に重点。

“ ポモドーロ・テクニック（時間管理術）を使って、より多くの休憩を取る。

“ 探索的テストを導入しました...

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

テスターを採用するとき マネージャーは何を 重視しているのでしょうか？

採用担当マネージャーに新しくテスターを採用するときに何を重視しているかを質問した結果、次のような点を重視していることが分かりました。

- 既成概念にとらわれずに考える能力
- テストへの情熱
- スクリプティングの知識
- テストの説明力
- 大志と率先性
- 関連技術の理解
- よい文章表現＆コミュニケーションのスキル
- アジャイルの理解
- 水平思考
- 自主学習力

将来の予測

5年後の自分は何をしていると思いますか？

テスターまたはテストマネージャー	46%
テストコンサルタント	21%
5年後に何をしているか分からない	19%
ビジネスに関わる仕事	7%
プログラマーまたはリードプログラマー	5%
リタイア	2%
技術業界にはいない	1%

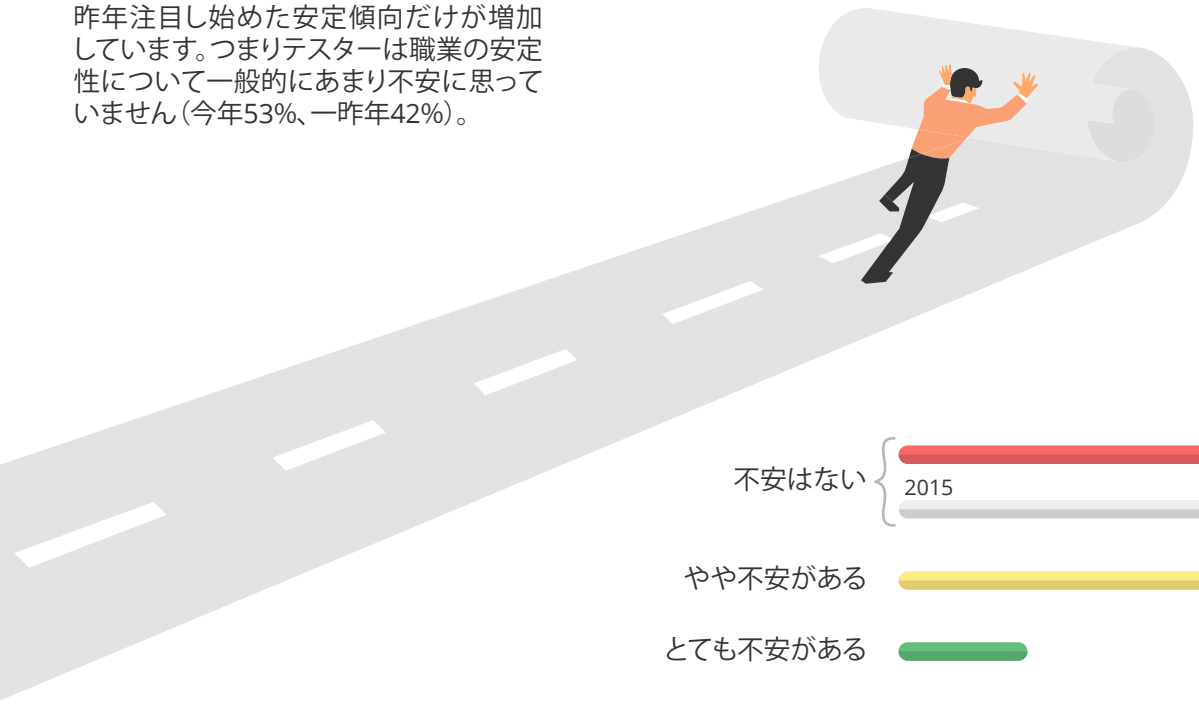
多くの回答者が次の5年もテスト業界に居たいと思っていることが見て取れますが、かなりの人数がコンサルタントとして働きたいと思っており、組織内のテストの仕事をしたくないと思っています（昨年19% → 今年20.5%）。

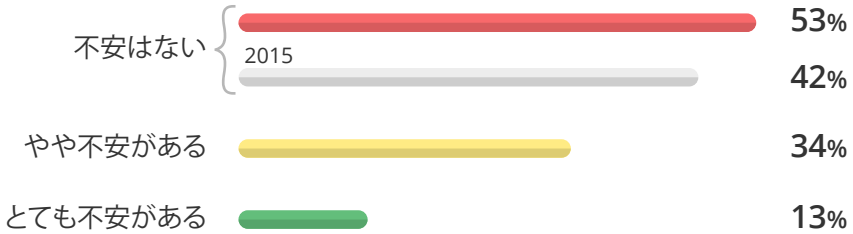
いまだに多くの人が5年後に何をしているか分からないとしています。私たちはその理由は明確なキャリアパスが無いからだと、そしておそらくテスト業界に明確なキャリアが無いからではないかと思っています。

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

職業の安定性についてどれくらい不安がありますか？

昨年注目し始めた安定傾向だけが増加しています。つまりテスターは職業の安定性について一般的にあまり不安に思っていません（今年53%、一昨年42%）。





テスト業界がどのように改善されると良いと思いますか？

私たちはテスターにテスト業界がどのように変わると私たち全員にとって良いですか、という質問をしました。それに対し、次のような興味深い回答を得ました:

- 特定の流派や技法が将来への正しいただ一つの道であるかどうかを言い争うよりも、全員が一丸となって自分たちが出来る最高のテストをするために働く。このような言い争いは、ある側面において宗教じみています。私たちはみな共通の「テストをする」という興味を持っているのだから、それを前面に押し出しましょう。アーメン!
- ...基本的に意思決定をする役割に適切な人物を置けば、私たちは機械的なチェックに頼り過ぎるという過ちから（再び）学ぶ必要が無くなるでしょう。
- 就業時間内に勉強するための時間を与え、「加えて」それを奨励する...
- テスターのほとんどが住んでいる発展途上国でもっとカンファレンスを開催する。
- もっとメンタリングがあると全てのテスターがスキルを上達させることができる。
- 政治を減らし、もっと協力し合う。
- ...私が一番見たいのは、テスト（やソフトウェア開発）を知らない人にテストを「売る」フレームワークです。なぜならそれが私がいつも苦労しているものだからです...
- 私は、人々がテストすることは簡単であると言わなくなることを心から願います... そしてテスターに彼らの仕事をさせ、テスターの邪魔をすることをやめて欲しいです。
- 組織でテストの重要性に対する認識を向上する。
- 他のテストの役割につく敷居を下げることを続ける。
- DevOpsはQAの代わりではないと伝える。
- 関係者全員のエゴを減らす。

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

おわりに

「大きくなったら何をしたい？」この質問に対して「大きくなったらテスターになりたい！」と答える人が多いとは思いません。

それでも、私たちの多くがテスターとして働いていることを友人や家族に伝えることに誇りを感じ、仕事の一環として直面する責任と課題を説明していると信じています。

今回の回答を受けとってレポートにまとめている時、テスターたちが今の自分の仕事に真剣に取り組んでいるだけでなく、その道の専門家だと感じていることに気付きました。

私たちテスターは自らのチームや製品に有意義な貢献をし、より高度なツールや手法も使い、全体的にはお互いの知識と経験から影響を与え合い、学び合う専門家コミュニティのように活動していると感じます。

私たちの仕事に影響を与える多くの変化、例えば、DevOps、テストチームのグローバル化、より高度なテスト方法論や技術の使用といった動きがあります。次回以降のレポートでこれらの点を継続して検討しようと思います！

私たちには多くの課題があります。例えば、適切な人の雇用、正しい知識やスキルの獲得、テストプロセスへの高度な自動化の導入、リリースの際の継続的な変更や課題の増加への対応などです。これらの課題は、私たちのチームや組織が責任をもつ分野の進歩を促す良い機会になると思います。

このレポートの冒頭で述べたように、この時代にテスターであることはエキサイティングなことです！そして、私たちは物事はさらにエキサイティングになるだろうと思っています！

テストの現状調査レポートのレビュワーや協力者の方々をはじめ、もちろん回答に時間を割いていただいた方々に改めて感謝いたします。

テスターの未来には何が待ち受けているでしょう？私たちはすでにテストの現状調査レポート2017にわくわくしていますが、あなたはいかがですか？

ではまた来年！

Lalit & Joel

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

Tea-time with Testersについて

Tea-time with Testersは、世界に配信されているソフトウェアテストの（オンライン）月刊誌です。これまでにない変化の波がビジネスやテスト業界、テスターのコミュニティに押し寄せてきている現在、Tea-time with Testersは、明日のチャレンジに必要な最新情報をお届けすることを約束します。それらの情報は、ソフトウェアテストの世界をさらに深く、完全に理解するのに役立つことでしょう。2011年の創刊以来、本誌はテスト刊行物の関係者にとってひとつのベンチマークになっており、本誌がソフトウェアテストの理論や考え方に関する真摯な報告を初めて行いました。そして、改めて、技術的 / 企業ジャーナリズムの全く新しいジャンルにより近く、より鋭く迫る最初のものになろうとしています。本誌は、世界中のテストコミュニティにおける唯一の月刊誌であり、そのコンテンツの品質、執筆陣、独特な情報提供で知られています。現在、Tea-time with Testersは、世界の英文テスト雑誌の中で最高の発行部数と読者数を誇っています。

より詳細はWebサイトへ
http://www.teatimewithtesters.com/

PractiTestについて

PractiTestはQAとテストのマネジメントの全てをサポートする統合ソリューションです。本ソフトウェアはプロジェクトに関する情報の統制やテスト結果の組織への報告を中心に、テストや開発プロセスのコントロールをサポートします。

本ソフトウェアは、要求仕様の整理、テストケースの作成と実行、バグトラッキング等をサポートしています。さらに、Selenium、JUnit、SoapUI、QTP、Jenkins、Circle CI等の自動化ツールやSlack他の生産性アプリケーションだけではなく、JIRA、Bugzilla、RedMine、Pivotal Trackerといった有名なバグ管理ツールとの連携を可能としています。

より詳細と、15日間のトライアル版についてはWebサイトへ
https://www.practitest.com

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.

ご協力いただいた方々

今回の調査が実現したのは、ご協力いただいた方々のおかげです。

Quality Remarks
www.qualityremarks.com

ADVENTURES IN QA
www.adventuresinqa.com

Stephen Janaway
www.stephenjanaway.co.uk

Hiccupps
www.qahiccupps.blogspot.co.uk

Testing Curator Blog
www.testingcurator.com

All Things Quality
www.allthingsquality.com

A Lifelong Software Tester's Blog
www.testknight.de

Testing is believing
www.testingisbelieving.blogspot.co.uk

TQP TeamQualityPro See Everything
www.teamqualitypro.com

Keep Software Testing Weird
www.linkeshkannavelu.com

Bernie Berger
www.bernieberger1.blogspot.co.il

...making software suck less
www.andrei.contan.ro

The Testers Edge
www.thetestersedge.com

ASKTESTER
www.asktester.com

Software Testing
www.a-sisyphean-task.com

Mr.Slavchev()
www.mrslavchev.com

QUIKER QUALITY ENGINEERING
www.quikerqe.com

TESTINGMVD
www.testingmvd.wordpress.com

MasaoApril's Library.
Software Testingなネタを書いてみた。
www.masaoapril.hatenablog.com

Perze Ababa
www.perze.blogspot.co.il

Testknight
www.qahatesyou.com

Nicky Tests Software
www.nickytests.blogspot.co.il

richrtesting
www.richrtesting.wordpress.com

Qxf2 Services
www.qxf2.com

MAGNIFIANT
www.huibschoots.nl

Derk-Jan de Grood
www.djdegrood.wordpress.com

Test Pappy
www.testpappy.wordpress.com

InfoQ
www.infoq.com

QUALITY TESTING
www.qualitytesting.info

© 2016 - PractiTest & Tea Time with Testers. All rights reserved.